

焼却工場の再エネを活用した「はまっこ電気」による 走行時のCO₂排出量“実質ゼロ”のEVバスが運行を開始します



横浜市は、2050年までの脱炭素化の実現に向けて、再エネの地産地消や運輸部門の温室効果ガス排出削減を目的とした電気自動車(EV)等の普及を推進しています。

このたび、川崎鶴見臨港バス株式会社(以下、「臨港バス」という)が、鶴見駅西口を発着する路線においてEVバスによる運行を開始します。走行に必要な電気は、本市焼却工場の再エネ(バイオマス)を活用した市内事業者向けの電気メニュー「はまっこ電気」を利用することで、横浜市内のバス路線で初めて、走行時のCO₂排出量実質ゼロによる運行を実現します。

1 EVバスの運行について

(1) CO₂の排出について(再エネの利用)

現在、臨港バスにおいて路線バスとして使用している車両の多くはディーゼルエンジンバスであり、走行時にCO₂を含む排気ガスを排出しているのが現状です。そこで、CO₂排出量削減を目指しEVバスを導入します。

さらに、EVバスの充電に使用する電気が火力発電等で発電された電気の場合、発電時にCO₂が排出されますが、今回、再生可能エネルギー由来のCO₂フリー電気である「はまっこ電気」を使用することでEVバスの走行によるCO₂排出量を実質的に“ゼロ”とするとともに、再エネの地産地消を実現します。

※電力供給のイメージについては裏面をご覧ください。



EVバス車両



充電風景

(2) 運行会社

川崎鶴見臨港バス株式会社

(3) 運行開始日

令和7年2月(予定)

(4) 導入営業所および導入台数

導入営業所:川崎鶴見臨港バス株式会社 鶴見営業所(横浜市鶴見区駒岡1-28-9)

導入台数 :4台

裏面あり



GREEN × EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月~9月 横浜・上瀬谷



(5) 運行路線

主に鶴見駅西口を発着する路線

(鶴 02 鶴見駅西口～新横浜駅前、鶴 03 鶴見駅西口～新綱島駅、鶴 04 鶴見駅西口～新川崎交通広場、鶴 07 鶴見駅西口～三ツ池公園～駒岡車庫 ほか)

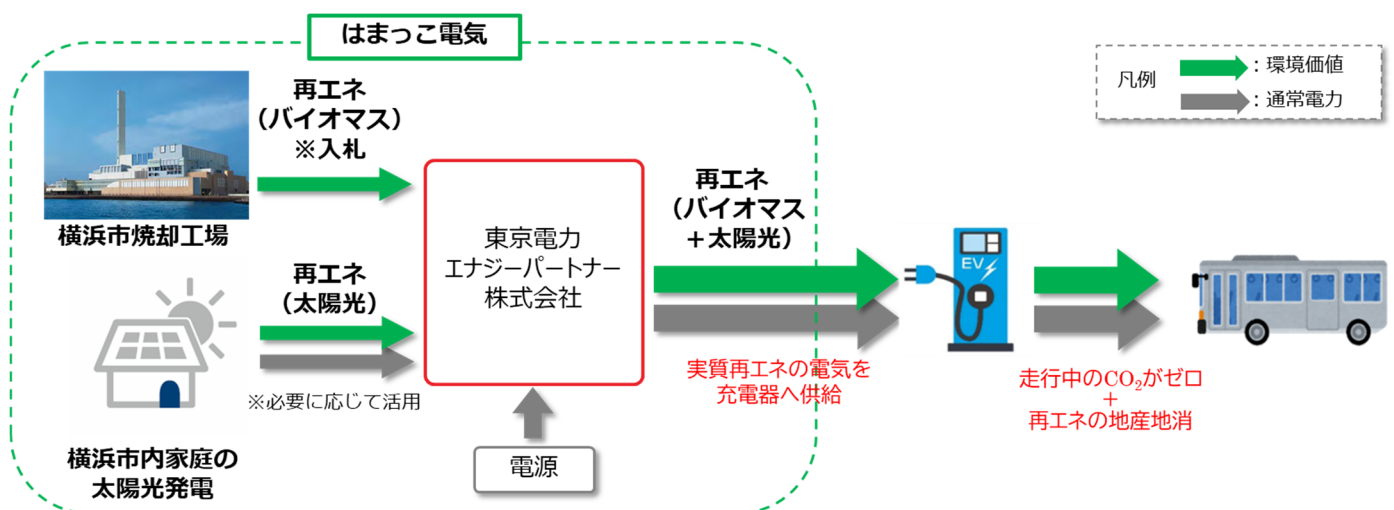
(6) 災害時の活用

今後、外部給電器の導入を予定しており、これにより非常時や災害時には EV バスから電気を取り出し営業所等の一時的な電源確保が可能となります。

2 はまっこ電気について

- ・横浜市の資源循環局焼却工場から発生する「環境価値」※1(非 FIT 非化石証書※2)と通常電力を組み合わせた実質 CO₂フリー電力を市内需要家に供給
- ・焼却工場の環境価値が不足した場合は、横浜市内の卒 FIT※3由来の環境価値を充当

【電力供給イメージ】



※1 環境価値

非化石電源(再エネ等)から発電された電気が持つ非化石としての価値で、電気そのものの価値と切り離して取引が可能

※2 非 FIT 非化石証書

再生可能エネルギーで発電した電気を、電力会社が一定価格で一定期間買い取ることを国が約束する「固定価格買取制度(FIT 制度)」の、適用外の電源である「非 FIT 電源」由来の環境価値を証書化したもの

※3 卒 FIT

FIT 制度の買取期間を満了する(FIT を卒業する)こと

お問合せ先

脱炭素・GREEN×EXPO 推進局カーボンニュートラル事業推進課長 松下 功 Tel 045-671-2636



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

